

2015年農林業センサスでみた 中国四国地域の農業構造



平成28年 8月

中国四国農政局統計部

はじめに

本書は、中国四国地域の農業構造の現状について、2015年農林業センサス結果を用いて図表等により分かりやすく取りまとめたものです。

農林業センサスの大きな目的は、農林業の経営に関わる「資源総量」である国内のすべての農林業を営む「経営体数」、その経営体が使っている「労働力量(人数)」、「耕地や林地」等を把握するとともに、どのような「経営体」がどれくらいの「労働力」、「耕地」等を使ってどのような農林業経営を営んでいるかという「関係性」に着目して「農林業の構造」を明らかにすることです。

本書の編集は、2015年農林業センサス結果をより分かりやすく理解できるように、そのことにより本センサスの目的でもあります中国四国地域の農業が現在どのようなになっているかを把握いただけるよう時系列比較や階層(部門)間比較の図表化のほか、中国四国地域の県・市町村地図を用いて調査結果を階級分け・彩色することで各地域の統計(情報)量の視覚化を図っています。

中国四国地域は、平坦な農地が少なく、中山間地域の割合が高いことから農産物生産の効率性においては不利な条件にある中で、地理的な多様性を活かして米・麦・大豆といった土地利用型農業のほか、傾斜地や高台を利用した果樹や畜産物の生産、温暖な気候に合った施設野菜や花きの栽培など多様な農業と多種類の特産品の生産が行われています。一方、現在、本地域は農地の荒廃や鳥獣被害等の拡大、他の地域に先行して農業経営体の高齢化や人口減少の状況が深刻化しています。

このような中、現在、農林水産省では「農林水産業・地域の活力創造プラン」、「食料・農業・農村基本計画」及び「総合的なTPP関連政策大綱」に基づき、産業政策と地域政策を車の両輪として施策を推進することで、「強い農業」、「美しく活力ある農村」の創出を目指すとともに、「農政新時代」として、次世代を担う経営感覚に優れた担い手の育成や国際競争力のあるイノベーションの促進等、農林水産業の成長産業化を一層進めるための施策を展開することとしています。

本書が中国四国地域の農業発展に向けてこれら諸施策展開の基礎資料として活用されることはもとより、統計の重要な役割であります国民や企業等の意思決定や各種研究に必要不可欠な「社会の情報基盤」として活用いただければ幸いです。

終わりに、本書の刊行にあたり、2015年農林業センサスにご協力いただいた皆様に、心より感謝申し上げます。

平成28年8月

中国四国農政局統計部長 石間 庄二

目 次

用語の解説と2015年農林業センサスにおける農業経営体の概念	1
2015年農林業センサス結果の概要（中国四国）	
1 農業経営体	8
2 総農家等	11
3 販売農家	12
4 農業集落	15
I 農業経営体	
1 農業経営体数	20
2 経営耕地面積規模別農業経営体数	24
3 経営耕地面積規模別面積	28
4 経営耕地の集積状況	32
5 経営耕地面積、借入耕地面積	34
6 農産物販売金額規模別農業経営体数	38
7 農産物の出荷先別農業経営体数	42
8 6次産業化の取組	46
9 農業労働力（雇用者）	50
10 農業経営組織別経営体数	54
II 総農家等	
1 総農家数及び土地持ち非農家数	60
2 耕作放棄地面積	64
III 販売農家	
1 主副業別農家数	70
2 専兼業別農家数	74
3 農業就業人口	78
4 基幹的農業従事者数	86
IV 農業集落の現状	
1 集落としての機能（コミュニティ）を持っている農業集落数	94
2 過去1年間の寄り合いの回数	98
3 過去1年間の寄り合いの議題別農業集落数	102
4 地域資源の保全状況	106
5 活性化のための取組状況	110
V 参考 集落営農（集落営農実態調査より）	
1 集落営農数	116
2 集落営農の集積面積	120
3 集落営農の構成農家数	124

2015年農林業センサスでみた
中国四国地域の農業構造

平成28年8月発行

編集・発行 中国四国農政局統計部
〒700-8532 岡山市北区下石井1-4-1 岡山第2合同庁舎内
電 話：086-224-4511（代表）
F A X：086-234-6047